

環境モニタリングの結果及び令和7年度上半期の状況一覧表

資料 3

調査目的	調査名	調査項目	基準等	調査地点数	基準等超過項目			基準等超過項目の測定値(最小～最大)・基準値超過地点数					令和7年度上半期の状況	
					～令和6年度	令和6年度下半期	令和7年度上半期	～令和6年度(最大年度)	令和6年度下半期	令和7年度上半期	基準値等	単位		
2.1生活環境保全上の支障の有無の把握	大気環境調査	ジクロロメタン、ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン	大気環境基準	2地点	なし	-	-	-	-	なし	-	物質毎	μg/m <sup>3</sup>	下半期で調査を予定している。
		塩化ビニルモノマー、1,3-ブタジエン、アクリロニトリル、クロロホルム、1,2-ジクロロエタン、水銀及びその化合物	指針値		なし	-	-	-	-	なし	-	物質毎	(ng/m <sup>3</sup> :水銀)	
		硫化水素、メタン、アンモニア	目標値		なし	-	-	-	-	なし	-	物質毎	ppm (mg/m <sup>3</sup> :メタン)	
	硫化水素連続調査	硫化水素	目標値	2地点	硫化水素	なし	なし	0.005未満～1.105	H20	0.005未満	0.005未満	0.02未満	ppm	目標値に適合していた。
	放流水水質調査	○年1回調査項目 鉛及びその化合物、砒素及びその化合物、ほう素及びその化合物、ふっ素及びその化合物、アンモニア等(アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物)、生物化学的酸素要求量(BOD)、浮遊物質(SS)、ノルマルヘキサン抽出物質含有量(鉱油類含有量)、ノルマルヘキサン抽出物質含有量(動植物油脂類含有量)、フェノール含有量、亜鉛含有量、溶解性鉄含有量、溶解性マンガン含有量、大腸菌群数、ダイオキシン類 ○年4回調査項目 1,4-ジオキサン、pH	放流水基準	1地点	大腸菌群数	-	なし	0.1～16300	H20	-	23	3000以下	個/cm <sup>3</sup>	放流水の水質は、すべての項目で放流水の基準に適合していた。 過去に放流水基準を超過したことがある大腸菌群数についても基準に適合していた。
	河川水水質調査	○年1回調査項目 鉛、砒素、ふっ素、ほう素、大腸菌数 ○年4回調査項目 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、1,4-ジオキサン、pH、BOD、SS、溶存酸素量	環境基準 上下流の比較	2地点	BOD、SS、溶存酸素量、大腸菌数	BOD	BOD	上下流で同様の値を示す	-	上流側 BOD 1.5～2.4 下流側 BOD 1.4～2.4	上流側 BOD 2.8～5.7 下流側 BOD 2.1～4.7	BOD 2以下	BOD mg/L	上流側と下流側で同程度の値を示した。処分場からの放流水が周辺環境に与える影響は概ねないものと考えられる。
バイオモニタリング調査	AOD試験による半数致死濃度	指針値 上下流の比較	2地点	AOD値	なし	-	上流、下流ともに170～1000	H21	上下流で同様の値を示す	-	400以上	%	下半期で調査を予定している。	

調査目的	調査名	調査項目	基準等	調査地点数	令和7年度上半期の状況									
					鉛	砒素	トリクロロエチレン	ベンゼン	1,4-ジオキサン	塩化ビニルモノマー	BOD	ほう素	ふっ素	ダイオキシン類
2.2浸透水等の地下水の拡散又はそのおそれの把握	浸透水水質調査	○年1回調査項目 総水銀、六価クロム、1,2-ジクロロエタン、ベンゼン、塩化ビニルモノマー、アルキル水銀、カドミウム、全シアン、ホリ塩化ビフェニル、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,1-ジクロロエチレン、1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、1,3-ジクロロプロパン、チラム、シマジン、チオベンカルブ、セレン ○年4回調査項目 鉛、砒素、1,4-ジオキサン、BOD、	地下水等 検査項目基準	11地点	鉛	鉛	超過なし	0.002未満～0.060(9地点)	H25	0.002未満～0.011(1地点)	0.002未満～0.008	0.01以下	mg/L	H16-6で砒素、No.3b、H16-3、H16-6、H16-10、H17-15でBODが基準値を超過した。 H16-6の砒素及びBODについては横ばい傾向であった。 No.3b、H16-3、H16-10、H17-15のBODについては緩やかな増加傾向を示していたが、直近3年間程度は横ばい傾向である。
			砒素		砒素	超過なし	0.001未満～0.069(3地点)	H26	0.001未満～0.015(1地点)	0.001未満～0.015(1地点)	0.01以下			
			トリクロロエチレン		-	超過なし	0.002未満～0.019(1地点)	H16	-	0.001未満	0.01以下			
			ベンゼン		-	超過なし	0.001未満～0.018(4地点)	H23	-	0.001未満～0.001	0.01以下			
			1,4-ジオキサン		超過なし	超過なし	0.005未満～0.31(5地点)	H24	0.005未満～0.035	0.005未満～0.032	0.05以下			
			塩化ビニルモノマー		-	超過なし	0.0002未満～0.012(1地点)	H26	-	0.0002未満	0.002以下			
	地下水水質調査	鉛、砒素、1,4-ジオキサン、BOD	地下水等 検査項目基準	10地点	BOD	BOD	超過なし	1.2～160(11地点)	H16	10～47(7地点)	4.4～33(5地点)	20以下	mg/L	No.3b、H16-6、H16-10、H16-13、H17-15でほう素が、No.3b、No.5b、H16-3、H16-6、H16-10、H16-11、H17-15でふっ素が基準値を超過した。 ほう素、ふっ素で基準を超過する地点があり、変動はみられるものの、横ばいもしくは緩やかな低下傾向である。
	ほう素	ほう素	ほう素		0.02～31(9地点)	H25	0.03～9.1(5地点)	0.05～2.6(5地点)	1以下					
	ふっ素	ふっ素	ふっ素		0.08未満～5.6(9地点)	H16	0.11～2.2(7地点)	0.05～2(7地点)	0.8以下					
	ダイオキシン類	環境基準	ダイオキシン類		超過なし	超過なし	0.032～110(7地点)	H22	0.028～0.16	0.03～0.81	1以下	pg-TEQ/L		
地下水水質調査	ほう素、ふっ素、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	地下水環境基準	10地点	鉛	超過なし	超過なし	0.002未満～0.083(6地点)	H19	0.002未満～0.003	0.002未満～0.002	0.01以下	mg/L	H17-19で砒素が基準等を超過したが、埋立区域の上流側に位置しているため、自然由来である可能性が考えられた。	
	砒素	砒素		超過なし	0.001未満～0.068(1地点)	H27	0.001未満～0.020(1地点)	0.001未満～0.013(1地点)	0.01以下					
	BOD	BOD		超過なし	0.5未満～27(3地点)	H30	1.2～21(1地点)	0.5未満～13	20以下					
	ダイオキシン類	環境基準		ダイオキシン類	超過なし	ダイオキシン類	0.030～3.4(3地点)	R4	0.026～0.50	0.026～1.3(1地点)	1以下			pg-TEQ/L

調査目的	調査名	調査項目	基準	調査地点数	令和7年度上半期の状況
2.3処分場の状況の把握	発生ガス調査	発生ガス(発生ガス量、メタン、二酸化炭素、硫化水素、酸素、孔内温度(管頭下1m)、気象(気温、気圧))	-	17地点	発生ガス濃度:硫化水素濃度は概ね横ばい傾向を示している。メタン濃度は変動のある地点もあるが、これまでの変動の範囲内で推移している。 発生ガス量:全地点で横ばいから低下の傾向が見られるが、調査地点のうち12地点ではガスの発生が非常に少なかった。
	地中温度調査	鉛直方向1m毎の温度、帯水層の温度	-	10地点	観測期間全体では、やや低下傾向で推移しており、処分場外との差は小さくなっているものの、令和7年9月調査時は、前年同時期よりも地中温度が高い地点が確認された。 また、No.5地点の浅部で令和4年12月～令和5年9月頃に一時的に温度が高い状況が確認されたが、令和6年2月以降は概ね横ばいもしくはやや低下傾向で推移している。
	地下水位調査	地下水位、降雨量	-	21地点	変動の幅はこれまでと同様であった。
	多機能性覆土状況調査	硫化水素	-	26地点	定量下限値未満で変化なし。
	地表ガス調査	硫化水素	-	5地点	定量下限値未満で変化なし。

凡例

- 地下水等検査項目基準を超過したもの
- 環境基準を超過したもの
- 目標値を超過したもの
- 指針値を超過したもの

赤字表記  
(○地点)  
- 評価期間中に調査なし

基準・目標値等を超過する値  
基準等を超過した地点数  
評価期間中に調査なし